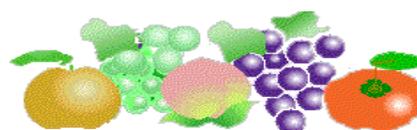


# 令和5年度 しらかわ果樹情報第3号



令和5年5月15日

福島県県南農林事務所農業振興普及部

## 1 向こう1か月の天候の見通し（5月6日から6月5日まで）

期間のはじめに低気圧や気圧の谷の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は、平年並か多い見込みです。

## 2 発育状況

モモ「あかつき」、ナシ「幸水」、「豊水」は幼果期に入っています。

## 3 栽培上の留意点

（1）防霜対策（防止対策の詳細は、しらかわ果樹情報第2号を参考ください。）

- ・現在の生育は、各樹種ともに平年より2週間程度早まっている。生育ステージごとの安全限界温度を下回る温度に遭遇するおそれがある場合には速やかに防霜対策を実施する。
- ・事前対策としては、防霜資材を準備するとともに、地温の上昇を図るため下草は5cm程度に刈り込む。空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保する（乾燥条件は気温の低下が著しいため）。

（2）凍霜害の事後対策

- ・被害程度が大きい場合には、摘果は、結実や生理落果状況を確認してから行うようにし、結実確保を最優先する。
- ・ナシの摘果は、果形やさび等の果面障害の状況を確認して被害程度の軽い果実を残し、着果量の確保に努める。果面の亀裂（図1）は大きくても、果実の肥大に伴い目立たなくなることがあるため、腐敗しない限りは着果させる。
- ・リンゴの摘果は、さび等の果面障害の状況を確認して果形の良い果実を残す。中心果が被害を受けている場合は側果を残し、着果量を確保する。
- ・カキでは、花蕾の着生状況及び結実状況が判断できるまで摘蕾、摘果は控える。



図1：ナシの果面障害（亀裂）  
（5月8日、白河市本沼）

（3）かん水

- ・5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施する。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くする。

（4）草刈り・マルチ

- ・樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行う（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分）。
- ・刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分を保持する。

#### 4 病虫害防除上の留意点（使用薬剤は防除暦を参照してください）

本年は生育が平年よりも大幅に進んでいるため、防除が遅れないよう注意しましょう！

### （1）病害

ア モモせん孔細菌病【春型枝病斑のせん除は、病斑を発見しやすい今がチャンスです！】

◎県南地方の春型枝病斑の発生は昨年より低い（表1）、天候によっては発生が拡大するおそれがあるため注意する。

- ・発生初期の密度抑制が重要なため、定期的にはほ場を巡回し、伝染源である春型枝病斑の早期発見とせん除を徹底する。せん除は、発病部位が残らないように病斑部の周辺を含めて可能な限り基部から切り戻す。樹冠上部での発生を見逃さず、直下への被害拡大を防止する（図2）。薬剤防除は、落花直後に使用し、被害防止に努める。
- ・落花後にクプロシールドを使用する際は、薬害の発生を軽減するため、クレフノン100倍を、必ずバケツ等で一次希釈を十分に行ってから加用する。また、薬剤が沈殿しないよう攪拌しながら散布を行う。高温時の使用や連用は、薬害が発生しやすくなるおそれがあるため避ける。
- ・春型枝病斑の発生は長期間にわたるため、せん除は定期的に複数回行う。



表1 モモせん孔細菌病の発生状況（白河市、品種：あかつき）

調査地域	春型枝病斑発生率（%）		
	本年	昨年	一昨年
実証ほ（東上野出島）	0.0	3.0	0.0
対照ほ（同上）	1.5	7.0	0.5
実証ほ以外（本沼）	0.0	1.0	0.0

（調査日：本年4月28日、昨年4月25日、一昨年4月27日）

図2 春型枝病斑のせん除位置

イ ナシ黒星病【昨年のように感染を拡大させないために、今の時期の防除が重要です！】

- ・県病虫害防除所による4月中旬の調査では、花そう基部病斑の発生が確認されている。今後の天候しだいでは、感染が増加するおそれがあるため注意する（4月21日付け令和5年度病虫害防除情報、4月26日付け令和5年度病虫害発生予察情報第1号）。
- ・果そう基部（図3）や果実等の罹病部位を徹底して除去するとともに、薬剤散布は1週間間隔で行い、気象情報に留意し、降雨前の予防散布を心がけ、ムラがないように十分な量を使用する。



図3 ナシ黒星病の果（花）そう基部（芽基部）病斑の発見の目安

ウ リンゴ腐らん病
・早期摘果は感染防止に有効。特に「ふじ」は摘果が遅れると果柄が脱落しにくくなり、感染しやすくなるので、早期に摘果を行う。
エ ブドウ黒とう病・ブドウ晩腐病
・展葉5～6枚期はこれら2病害の防除時期となるため、本病に有効な薬剤を散布して初期の感染を防止する。今年度は生育が平年よりも大幅に前進しているため、防除適期を逃さないように注意する。

**(2) 虫害 (表2参照)**

ア モモハモグリガ
・昨年秋季のモモ新梢葉における発生ほ場割合は平年より高く、 <b>果樹研究所内のフェロモントラップでは、例年より多くモモハモグリガ雄成虫が誘殺されている (令和5年度病害虫発生予察情報注意報第1号)。</b> ・第1世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合には、5月5半旬ごろと推定され、第2世代幼虫の防除適期は5月6半旬ごろと推定される。
イ リンゴモンハマキ
・越冬世代誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合には、5月2半旬ごろと予測され、第1世代幼虫の防除適期は5月5半旬ごろと推定される (リンゴコカクモンハマキもこれに準じると考えられる)。 ・複合交信かく乱剤は、ハマキムシ類の越冬世代成虫発生初期に設置することが有効であるため、まだ設置していない園地では早急に設置する。
ウ ナシヒメシンクイ
・第1世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合には、6月2半旬ごろと予測され、第2世代幼虫の防除適期は6月4半旬ごろと推定される。 ・ <b>本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意する。</b>
エ カイガラムシ類
・果樹研究所内のモモでは、5月1日にウメシロカイガラムシのふ化が初確認された。 <b>カイガラムシ類はふ化期の防除が重要であるため、適期を逃さずに実施する。</b>
オ カメムシ類
・ <b>越冬世代成虫による被害は幼果の段階から発生する可能性がある。山間部や山沿いの園地では、カメムシ類の飛来状況をよく観察し、集団的な飛来を確認した場合には速やかに防除を行う。</b>

表2 果樹研究所における防除時期の推定 (令和5年5月1日現在)

今後の 気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ		ナシヒメシンクイ	
	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	5月23日	5月29日	5月6日	5月21日	6月9日	6月18日
平年並	5月27日	6月2日	5月7日	5月25日	6月16日	6月26日
2℃低い	6月3日	6月10日	5月10日	6月1日	6月28日	7月9日

起算日：リンゴモンハマキ3月1日、モモハモグリガ4月7日、ナシヒメシンクイ4月11日  
(演算方法は三角法)

## 5 気象概況

4月5半旬から5月2半旬までの平均気温は13.1℃で平年並となりました。降水量は106.0mmで平年比153.4%と多くなりました。日照時間は164.8時間で平年比134.9%となりました。

表3 月別気象表(白河市)

平年：1981～2010年

月	半旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比(%)	本年	平年	平年比(%)
4	5	11.1	11.6	-0.5	17.8	17.4	0.4	5.5	6.2	-0.7	0.0	18.1	0	51.3	29.9	172
	6	13.6	12.7	0.9	19.0	18.6	0.4	8.8	7.2	1.6	45.5	17.1	266	28.5	31.3	91
5	1	15.0	13.7	1.3	22.4	19.5	2.9	7.0	8.1	-1.1	1.5	16.8	9	52.4	31.2	168
	2	12.8	14.4	-1.6	20.3	20.0	0.3	6.7	9.0	-2.3	59.0	17.1	345	32.6	29.8	109
平均・合計		13.1	13.1	0.0	19.9	18.9	1.0	7.0	7.6	-0.6	106.0	69.1	153.4	164.8	122.2	134.9

(参考) 農業総合センター果樹研究所の生育状況(4月30日現在)

表4 ぶどう「巨峰」の開花予測(4月30日現在)

発育ステージ	今後の気温経過と予測日				
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い
開花始め	6月1日	6月4日	5月29日	5月26日	6月2日
満開	6月11日	6月8日	6月3日	5月31日	6月7日

注) 平年は1991～2020年の平均値、ぶどう「巨峰」の調査樹は令和3年度より変更

表5 もも「あかつき」の硬核期予測(4月30日現在)

品種	硬核期開始日			
	本年予測	昨年	平年	平年差
あかつき	5月31日	6月7日	6月9日	9日早い

注) 平年は、1991～2020年の平均値